

知ってますか？ 決めてますか？

今回の東日本大震災で被災された方々に心からお見舞い申し上げます。購読者皆様のご親戚や知人友人の方で未だ安否の確認ができていない方もいるのではないかと考えると胸が張り裂けそうな辛い気持ちになります。今はただご無事を祈るばかりです。さて、2004年11月号で「備えあれば憂いなし」と題して、災害時の備えに関して特集しましたが、再度、普段心がけておくことと災害が起こったときの対応を「世田谷区の災害時区民行動マニュアル」を中心にご紹介します。

世田谷区役所 危機・災害対策課が問う！ 防災意識チェックシート！

チェック項目	チェック	ひとことアドバイス
①非常時のために食料・水を備えていますか		乾パン、缶詰、水(1日3ℓ)など、1人3日分が目安です
②家庭用消火器などの消火具を備えていますか		延焼する前にすばやく消火することが大切です
③非常時持ち出し品を準備していますか		懐中電灯、携帯ラジオ、救急セットなどが役立ちます
④家具類のおき方の工夫や、転倒防止器具での固定をしていますか		家具等の転倒により多くの人的被害が発生します
⑤地域の防災訓練に参加していますか		防災訓練の申込み、相談は総合支所地域振興課へ
⑥隣近所で災害時の助け合いについて話し合っていますか		高齢者や障害のある方などを地域全体で支援しましょう
⑦最寄りの避難所までの経路を把握していますか		日ごろから危険の少ない避難経路を確認しましょう
⑧災害時に区立小・中が避難所となるのをご存知ですか		自宅で生活できないとき、一時的にそこで生活します
⑨災害時の地震情報の入手方法を考えていますか		ラジオ・FM 世田谷(83.4MHz)からも入手できます
⑩家族で緊急時の安否確認方法を決めていますか		災害用伝言ダイヤル「171」などを活用しましょう

<結果診断>

チェック数はいくつでしたか？

0~1個	すぐに備えを始めましょう
2~4個	もっと備えが必要です
5~7個	ある程度備えられています
8~10個	防災への意識が高いです

<非常持ち出し品の例>



<決めてますか？ 連絡方法>

今回の経験でわかったことは、電話は圧倒的に繋がりにくいということ。いざというとき、お互いがどのように連絡を取り合うか決めておくことは大変重要に思いました。連絡の取り方には以下のような方法がありますが、完全ではありません。普段から話し合い、決めておくことが大切です。

- 災害用伝言ダイヤル171 又は web171 を使う
- eメール、スカイプ、ツイッター、フェイスブック等ネット回線を使う
- 各携帯電話事業者の災害用伝言板サービスを使う
- 番外編ですが、有名人のブログのコメント欄に書き込むという事例もあるようです。詳しくは各事業者まで。

★「田舎のごっこお」スタッフの無事確認

用賀にある陸前高田のアンテナショップ「田舎のごっこお」。震災当日、藤井、村上両氏は陸前高田に戻っている最中。中々、本人と連絡が取れず、用賀商店街関係者もやきもきしましたが、その後、無事との連絡が取れ、一同ホッとなりました。できる限りの応援をしたいと思っております。



<家族での話し合いが大事>

大地震が発生したとき「自分の身の安全は自分が守る」「自分たちのまちは自分たちで守る」という心がまえと行動が基本です。地震の被害を小さくするには、家庭や隣り近所で災害への備えをし、災害発生初期に適切な対応をする必要があります。

「いざ」というときにどうするかということを家族みんなで話し合い、以下の項目を決めておくということが大切です。

- * 家の中でどこが一番安全か、また、危険なところはどこか？
- * 一時集合所、広域避難場所はどこか（散策を兼ねて家族み）
- * 最短距離より、安全な避難ルートを全員で考える
- * 広い広域避難場所では、自分たちの集合場所を決めておく
- * 離れた場所にある親戚の家や災害用伝言ダイヤルを災害時の
- * 非常時に持ち出すものとして何をそろえておけばよいか？



被災地応援イベント！ 元気出そう、用賀の春

ようがパワー開催！

用賀地域の様々な団体が立ち上がり「ようが有志の会」が急遽結成され、被災地応援イベントが開催されます！ 屋台やバザーなど盛りだくさんの企画です。売り上げの一部は義援金として寄付させていただきます。是非お立ち寄りください！

日程：4月2日(土)、3日(日)
時間：11:00~16:00
場所：真福寺参道(土日)、大山通り(日)

* いろはに刀サッチ#20「ね」* ～念には念を入れよ～



「ね」は、江戸では「念には念を入れよ」で、注意したうえにも注意を重ねよ。きわめて慎重に物事を行えという意味。大阪では「寝耳に水」で、突然思いがけないことを聞いてびっくりすること。語源は、寝耳に水の「水」とは洪水などの濁流音で、耳はもちろん体の「耳」。治水が完全でなかった昔はよく川が氾濫したそうで、それが寝ているときであればなおさら驚くことになり「寝耳に水」となりました。京都では「猫に小判」で、貴重なものを与えても、本人にはその値うちがわからないことのとえ。